


誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン

令和8年3月25日現在

江戸川区立篠崎小学校

全国学力・学習状況調査		
A・B層の割合		
年度	国語	算数
令和8年度の目標	55.8%	36.0%
令和7年度の目標	50.0%	33.0%
令和6年度の結果	44.1%	29.4%
令和5年度の結果	49.0%	22.6%

令和7年度江戸川区学力調査結果		
A・B層の割合		
学年	国語	算数
第6学年	50.6%	63.2%
第5学年	42.1%	52.6%
第4学年	47.6%	48.9%
第3学年	63.1%	57.3%

 ともに、生きる。江戸川区	目標達成に向けた取組		
	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	<ul style="list-style-type: none"> 教科担任制を推進し、専門性の習得と質の高い授業力向上を図る。 授業UDの視点から、授業中の学習過程を可視化する。 授業の導入で、前単元や前時の学習内容を想起する。 各教科等の各単元で問題解決型の学習を計画し実践する 児童が自ら問いを立て、調べ、考え、表現する「探究的な学び」の単元計画を立て、授業展開をする。 週1回OJT研修を年間7回の校内研究授業を実施し、実践的な指導力の習得と、授業改善を継続的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリル診断テストを学期に1回実施をする。 週に2回篠小タイムを設定し、国語と算数を中心に、学習ソフトの「ドリルパーク」や、児童の実態に応じた課題プリントに取り組ませる。 AB層→当該学年の学習内容、または、発展的な学習内容に取り組む。 CD層→学年を1つ下げると、習熟度に合わせた課題に取り組む。 週1回30分程度の補習教室を実施し、CD層の基礎基本の定着を図る。 4～6年生は、朝のモジュール学習で週に1回程度「YOMUよむワークシート」に確実に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学年×10分」の家庭学習の実施を、保護者へも周知・依頼する。 「江戸川っ子study week」で学習カードを活用し、未修得箇所の復習と家庭学習を習慣化する。 エドタブルールの周知・徹底を図り、特に、家庭ルールについて毎学期末に児童自身の振り返りを行う。 5月実施の睡眠振り返り週間や健康振り返りカードを活用して、規則正しい生活習慣の定着を図る。 児童が自分の学習状況や課題を踏まえて、家庭学習の学習計画を立てるようにする。
特に支援が必要な児童・生徒への手だて	<ul style="list-style-type: none"> 「個人のめあて」を設定して、それに対して振り返りをする。 各学力調査関係の結果や児童の学習の習熟度を分析し、個に応じた適切な課題提示と支援を行う。 学年や専科、支援員、スクールカウンセラー等と連携し、複数の視点から児童の実態を捉えるようにする。 紙媒体やタブレット端末等、学び方の選択肢を用意して児童が選択できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部委託業者の行う放課後補習教室と連携して、学級担任は学級補習に取り組む、学習支援の充実を図る。 2～6年東京ベーシック診断テスト、4.5年学力定着度調査、3～6年江戸川区学力調査、2.3年CDTテストの結果分析を基に「ドリルパーク」や苦手分野の課題を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ドリルパーク・まるぐランド」の課題配布機能を用いて、個のつまずきに応じた課題設定や問題数を精選して、取り組む課題を指定する。 自分の成果や課題を視覚化にし、自己の学びを捉える。
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> 6年全国学力学習状況調査の「児童・生徒質問紙」における設問「算数の授業の内容はよくわかりますか」への肯定的な回答を95%以上(R7は92.9%) 学校評価児童アンケートの「授業はわかりやすいですか」への肯定的な回答を90%以上 (R7は90%) 	<ul style="list-style-type: none"> ワークテストの知識・技能 <ul style="list-style-type: none"> →AB層 (正答率6割以上) 80%以上 東京ベーシックドリル診断テスト (2～6年生) <ul style="list-style-type: none"> →平均正答率80%以上 江戸川区学力定着度調査 (4.5年生) ・江戸川区学力調査 (3～6年) <ul style="list-style-type: none"> →AB層6割以上。また、平均正答率を昨年度の数値より上回る。 6年全国学力学習状況調査 <ul style="list-style-type: none"> →全国平均正答率と同等ポイント以上 	<ul style="list-style-type: none"> 6年全国学力学習状況調査の「児童・生徒質問紙」における「学校の授業時間以外の勉強時間」1時間以上の回答割合を80%以上 (R7は75%) 学校評価児童アンケート「家庭学習を学年×10分程度の実施」を回答割合を90%以上 (R7は83%) 「江戸川っ子study week」ドリルパークの実施率90%以上の継続。